

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【公表番号】特表2009-519735(P2009-519735A)

【公表日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2009-020

【出願番号】特願2008-544883(P2008-544883)

【国際特許分類】

A 6 1 F	13/00	(2006.01)
A 6 1 F	13/02	(2006.01)
A 6 1 L	15/00	(2006.01)
A 6 1 K	33/38	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 K	9/70	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	47/38	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/06	(2006.01)

【F I】

A 6 1 F	13/00	3 0 1 G
A 6 1 F	13/00	3 0 1 Z
A 6 1 F	13/02	3 1 0 A
A 6 1 L	15/00	
A 6 1 K	33/38	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 K	9/70	4 0 1
A 6 1 K	9/06	
A 6 1 K	47/38	
A 6 1 K	47/36	
A 6 1 K	47/14	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	47/06	

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月12日(2009.8.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

乳化剤は本発明と関連して界面活性剤の活性を有する物質として理解されるべきであり、従って水が前記親水性基剤に添加された際に多相性混合物、すなわちエマルジョンが生成し得る。本発明の組成物は特に乳化剤を含み、これにより水が添加された際に前記親水性基剤が油中水型エマルジョン(W/Oエマルジョン)、油中ゲル型エマルジョン(G/Oエマルジョン)、水中油型エマルジョン(O/Wエマルジョン)、ゲル中油型エマルジョン(O/Gエマルジョン)、水中油中水型エマルジョン(W/O/Wエマルジョン)、

ゲル中油中ゲル型エマルジョン（G / O / G エマルジョン）、水中油中ゲル型エマルジョン（G / O / W エマルジョン）、ゲル中油中水型エマルジョン（W / O / G エマルジョン）、油中水中油型エマルジョン（O / W / O エマルジョン）、又は油中ゲル中油型エマルジョン（O / G / O エマルジョン）を形成し得るべきである。同様に好ましくは、O / W エマルジョン若しくはW / O エマルジョン又はO / G エマルジョン若しくはG / O エマルジョンを形成し得；またエチレン又はプロピレングリコール類若しくはエチレンプロピレングリコール類を含まない、即ちエチレン、プロピレン、又はエチレンプロピレングリコール単位を含むどのような物質も含まない乳化剤である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

i i) ゼラチン溶液の生成

y g の上記溶液 A に x g のゼラチン粉末（豚皮由来 A 型、175 ブルーム、G E L I T A ゼラチン、D G F Stoess AG、69402 エーベルバッハ）を室温で添加し、 x % のゼラチン溶液を生成する。該ゼラチンは溶液 A へ全て一度に速やかに添加し、全粒子が該溶液で湿るように該溶液を強力に攪拌し、得られた混合物を 60 のウォーターバス中で 24 時間攪拌する。水が漏れないように注意すべきである。このようにして 20 % ($x = 20$ 、 $y = 80$) 及び 35 % ($x = 35$ 、 $y = \underline{65}$) のゼラチン溶液が生成する。